

消防学校 ニュース



令和元年10月号

初任科 実科査閲 いよいよ大詰め 半年間の訓練成果を披露する晴れの舞台

県内 15 消防本部(局)にて新規に採用された初任科第 90 期学生 127 人(うち女性 10 人)が、消防職員として必要な知識・技術を習得するため、寮生活を送りながら約 6 か月間(平成 31 年 4 月 4 日～令和元年 9 月 27 日)の教育訓練を受けました。「規律の厳守・技術の練磨・体力気力の練成」の校訓を胸に連日教育訓練に励み、その集大成の成果を確認・披露するため、9 月 12 日(木)午後 1 時から本校にて実科査閲を実施しました。初任科生たちは半年間の訓練のすべて余すことなく全力で披露しました。参列していただきました皆様、本当にありがとうございました。

(内容)

開式	(開会宣言・挨拶)	13 : 00～13 : 20
訓練礼式	(停止間・行進間)	13 : 20～13 : 40
機器取扱訓練	(各種資器材取扱等)	13 : 40～14 : 05
消防活動訓練	(火災想定訓練)	14 : 05～14 : 35
消防活動応用訓練	(火災想定訓練)	14 : 45～15 : 15
救助訓練(ロープ渡過・登はん・降下)		15 : 15～15 : 45
体力向上体操・一斉放水		15 : 45～16 : 00
閉式		16 : 00～16 : 10



学校長訓示「気合を入れる！」



金嶋静岡県危機管理監挨拶



村田静岡県消防長会会長挨拶



一糸乱れぬ団体行動！(訓練礼式)



破壊器具を使用した倒壊家屋からの救出訓練
(機器取扱訓練)



ホースカーを使用した基本放水訓練
(消防活動訓練)



状況に応じて注水技術を使い分ける。消防活動
応用訓練 (フラッシュオーバーボックス)



要救助者の予後を意識した車外救出
救助訓練 (交通救助)



安全かつ迅速な救助活動
救助訓練 (ロープワーク)



心・技・体を意識した体力向上体操



127人の気持ちをひとつにした一斉放水

初任科防災研修

教育訓練も大詰め、残り少なくなった9月10日(火)、原子力発電施設の現況や原子力防災に関する理解を深め、消防職員としての知識向上を図るため、初任科生たちは防災研修に出掛けました。

初任科生は早朝、バス4台に分乗して消防学校を出発しました。研修先は①中部電力(株)浜岡原子力発電所・浜岡原子力館②原子力防災センター③富士山静岡空港です。

初任科生は4班に分かれ常に規律ある行動で見学しました。



富士山静岡空港にて

初任科校外研修

修了式を翌週に控えた、9月18日（水）、19日（木）の一泊二日で初任科生たちは更なる知識の習得を目指して県外の校外研修に出発しました。

この最後の研修の目的は関係機関や施設等を視察することにより、消防職員として消防・防災関係の知識を深く、広く理解し、消防人としての更なる向上を図ることです。視察先は当校教官が企画・調整します。

（担当教官から）

研修先において、初任科生たちは非常に興味を持って話を聞いておりました。各研修先で共通して感じたのは、職員の方々の仕事に対する姿勢及び初任科生に対する期待の大きさです。この姿を見た初任科生たちにとって、2日間の研修が、今後の消防人生に役立つ有意義な研修であったと確信しています。

視察先の概要

施設名称	概要
JALメンテナンスセンター1 （東京都大田区）	航空機についての説明、展示エリア及び格納庫（整備中の航空機）の見学を通して、民間企業の安全管理に対する考え方を受講
東京消防庁総合指令室 （東京都千代田区）	東京23区や多摩地区から入電する119番通報を受信し、要請内容に応じた消防部隊を編成し出動指令を出す指令室を見学
東京湾アクアライン （千葉県木更津市）	海底トンネルでの交通事故や火災発生時に使用する防災施設や設備の見学
総務省消防庁 （東京都千代田区）	消防防災に係る制度立案、消防職員等の教育訓練などの施策の実施。緊急時には災害対応の司令塔として、官邸、関係府省、地方団体との連絡調整を行う機関。
東京消防庁消防博物館 （東京都新宿区）	消防の歴史と活動に関する資料等が展示されており、現代までの消防の歩みなどが研修できる施設。
東京消防庁第二方面本部 （東京都大田区）	大規模災害等に対応するため、高度な救出救助能力を有する隊員と装備で編成される部隊。通称ハイパーレスキュー。
横浜市消防訓練センター （神奈川県横浜市）	消防学校教育として、新規採用職員教育、専科教育、救急教育、消防団教育を実施。



JALメンテナンスセンター1



東京消防庁 第2方面本部

初任科修了式 ～消防学校からの旅立ち～

記録的な猛暑にも負けず全力で教育訓練に取り組んできた初任科第 90 期の学生たちにも、いよいよ修了の日がやってきました。9月27日、以下のとおり修了式を行いました。今期修了者は、127人(うち女性10人)です。

修了式次第

開式の辞

国旗に対する敬礼

国歌斉唱

黙禱

修了生氏名発表

修了証書授与

各賞表彰(危機管理監賞等)

学校長式辞

静岡県危機管理監祝辞

静岡県消防長会会長祝辞

修了生代表答辞

閉式の辞



修了生氏名発表(担当教官から)



学校長から修了生代表へ修了証書授与



表彰(加藤静岡県危機管理監代理から静岡県危機管理監賞授与)



表彰(村田静岡県消防長会会長から静岡県消防長会会長賞授与)

表彰一覧

種類	氏名	所属
静岡県危機管理監賞	長田 潤基	御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
静岡県消防長会会長賞	佐野 貴子	富士市消防本部
静岡県消防学校長賞	澤村 優太	静岡市消防局
	中澤 駿介	湖西市消防本部
	古郡 雷漸	浜松市消防局
奨励賞	清水 麻衣子	静岡市消防局
	小関 夏央	志太広域事務組合志太消防本部
	山崎 公暉	掛川市消防本部
	山口 宗谷	静岡市消防局
	吉田 洋一	静岡市消防局
	飯田 裕介	志太広域事務組合志太消防本部
努力賞	清川 直哉	富士山南東消防本部
体力賞	樋口 哲平	静岡市消防局
	遠藤 友也	浜松市消防局
功労賞	古郡 雷漸	浜松市消防局
	井口 航汰	袋井市森町広域行政組合袋井消防本部
	山口 宗谷	静岡市消防局
	岡澤 理久	磐田市消防本部

修了生代表答辞

修了生代表 浜松市消防局 古郡 雷漸（第90期総代）

本日は私達初任科第九十期修了生百二十七名のためにこのような盛大な式典を挙げて頂き、誠にありがとうございます。また、御多忙の中を御臨席くださいました御来賓の皆様、並びに関係者の皆さまに修了生一同心から感謝申し上げます。

消防学校での最後の任務は初任科生全員が「消防志」として胸を張って修了式を迎えると私達自身で決めたものでしたので、本日をもちまして達成されました。この場にいる初任科生全員が今、非常に誇らしく、胸を張っていることでしょう。

私達が自信溢れる表情を浮かべられるのは教官方の非常に熱のこもった教育の賜物であります。

教官方には、初任科生一同心より感謝しています。

初任科教育というこの半年間で私達は心身共に非常に大きく成長し、消防人としての自覚をもち、私達の崇高な使命のために努力を惜しんではいけないということを学びました。

永田チーフが初めての非常呼集の際に私達に下さった「主体性」という言葉を常に意識し、この先の消防人生を歩んで行きたいと強く思います。そして、この半年間、私達を教育して下さい下さった全ての方々に、次お会いした際に心技体揃ったたくましい消防人としての姿をお見せすることが私達の恩返しになると信じて、この先の仕事に真摯に向き合っていくと思っております。

最後になりましたが学校長をはじめ教官方、職員の皆さまの益々の御健勝と御多幸をお祈りすると共に、静岡県消防学校の更なる御発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

※ 一部分の抜粋です。

チーフ教官から

初任科第 90 期修了生たちへ

教育日数 115 日、教育時間数 801 時間。私は 127 人の素晴らしい若者達の消防士としての第一歩という非常に貴重な時間に立ち会えたことが、自分自身の成長にどれほど良い影響を与えてくれたことかと、本当に感謝しています。初任科第 90 期教育期間中には色々な話をさせてもらいましたが、消防の世界に入って間もない君達に伝える言葉として何をどう伝えるのか、私のこれまでの人生で持ちえる最善で嘘のない言葉で君達と向き合ってきました。今回は、その中の一つを振り返り、所属の一員として働き始めた初任科第 90 期修了生のみんなへのメッセージとしたいと思います。

令和の新時代となりましたが、これからも時代は移り変わり、環境や社会構造、人も変わっていきます。様々なものが変化していきますが、変わらないものもあります。変わらないものの一つに科学があると思います。消防＝科学です。科学である以上、目の前の事象を説明することができます。説明できるから評価することができ、判断することができ、適切な対処をすることができます。初任科教育においてこの部分を曖昧にせずに、基礎として君達に叩き込んできました。例えば炎を曖昧に捉えると魔法のようになってしまいますが、理化学的に捉えると光と熱を伴う可燃物の急激な酸化現象です。このような基礎知識を目の前の事象・現象に繋げる体験もたくさんしてもらいました。私が初任科生だった頃に比べ、今の時代の消防士は非常に多くのことを習得しなければならず、国民もそれを期待しています。これからの日本の未来を守る若き消防士として、もちろん気合や根性も必要ですが、当たり前すぎてあえて言葉にするまでもなく、科学的に、その時代の期待に沿った消防士に成長していてもらいたいと願います。ただ、あまり科学的だの合理的だの言っていますとあまりに味気ないですね。そこで最後に一言、消防士は心意気も大事！思いきっていけ！以上。

初任科第 90 期チーフ教官 永田 佳寛（磐田市消防本部から派遣）



答辞を読みあげる修了生代表 古郡総代



チーフ教官（永田教官）



さあ、新たなスタートだ！



がんばれ～！

台湾基隆市視察団来校

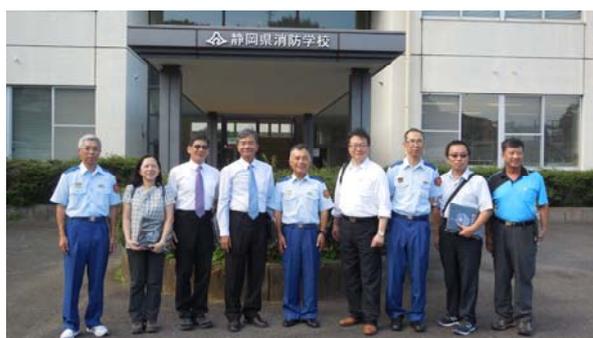
台湾基隆市林副市長、消防局陳局長ほか4人が本県との防災相互支援協定に基づき、9月1日（日）の総合防災訓練視察及び9月2日（月）の消防学校への表敬訪問が行われました。

本校では、基隆市陳局長から「協定に基づき来年度、基隆市消防局職員を数人、消防学校の訓練生として受け入れて欲しい。静岡県ノウハウを生かし、地震等の災害への防災、減災に取り組みたい。」との発言がありました。

学校長からは「静岡県と基隆市の相互支援により、お互いの技術等を学び、両者ともより発展できるよう今後とも交流をよろしくお願ひしたい。」と挨拶をしました。



熱心に施設見学



玄関前で記念撮影

塩崎ぜつ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー 今月のつぶやき

「大自然のトレーニングコース」

わが消防学校は、興津駅の北約3kmのところであり、南、西、北の三方を山に囲まれている。山の高さは2～300mほどか。山々には、農道が入り組んでいる。ここが学生にとって絶好のトレーニングコースとなっている。古い手書きの地図に10ほどのランニングコースと想定所要時間が書き込んである。学生達は、日々、ホース、3連梯子、装備、担架を担ぎ、山に入って行き、鍛錬に励む。会議で他県の教官から「静岡の学生は周りの山で鍛えているから強い」と褒められた時はとてもうれしかった。これも歴代の教官たちの知恵や創意工夫があつてのこと、大自然と歴代教官に感謝感謝である。せっかくなので、私も今年度中の全コースをゆっくり歩いての制覇を目指す。(もちろん、勤務時間外に)



県新規採用職員講習で走る校長
これから山へ！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

